



ウインドウはすべて  
エレクトリック。

エイゾウ

エル  
イコール  
イーエル



# 目次



ウインドウはすべてエレクトリック。

エイゾウ

はじめに

ロクサツめのジチョをだすことになった。イッサツめとくらべると、ブツリガクテキなセツがふえたとおもう。どうも、わたしのキョウミがそちらのホウにむいているからだ。これらはまとめ、ふゆあたりにイッサツにしようとおもっている。ブツリガクテキなはなしだけをよみたいというのであれば、てにとっていただきたい。

ことは、レイカであろう。あまりあつくない。しかし、わたしがこどものころをおもいだしみると、そんなにあつひがあったというキオクがない。こんなかんじだったかもしれない。

いよいよコウレイカがシンテンし、ニホンケイザイがためされるキョクメンにさしかかっている。ここでニジュウネンばかりこらえられたら、そのあとまあうまくいくかもしれない。キョウ、にじがみえた。シゼンはニンゲンのツゴウとはベツにうごく。むずかしいシャカイジョウキョウであるが、いいしごとができればとおもう。

ニセンジュウキュウネン シチガツニジュウシチニチ

イチ

ケイエイカツドウでは、くろじがよしとされる。しかし、だれもがくろじというのはありえない。くろじがでるなら、どこかであかじがでているはずである。

ヒャクエンのジュースでかんがえよう。そのうちサンジュウエンがリエキブンとしよう。これをななジュウエンでうれば、うるホウも、かうホウもあかじはでない（くろじでもない）。しかし、ヒャクエンでうりかかると、うるホウはサンジュウエンのくろじ、かうホウはサンジュウエンのあかじがでる。

フツウはこれをあかじといたりしない。しかし、そういうことである。かうホウは、そうやって、あかじ（くろじのもと）をキョウキュウする。ケイキがわるいときは、うるホウがあかじをキョウキュウしたりする。ただかうだけだったら、フケイキのホウがあかじはすくなくなるだろう。しかし、どこかではたらいでいたりするから、あかじじゃこまるとなる。カイシャがつぶれてしまつてはこまるし、キュウリョウがさがつてもこ

まるからだ。そうやって、くろじはゼニンされる。

また、ロウドウもあかじである。イッセンマンエンブシごとをして、ゴヒャクマンエンをうけとったりする。そういうわけだから、あかじはつきものともいえる。あかじがないシャカイをめざしたくにはあるが、それがセイコウしたとはきかない。

## 二

チホウからひとがダイトシのホウにイドウするという。そのために、ダイトシは、ますますおおきくなり、チホウはさびれる。なぜそういうことがおこるか。

ケイザイテキにいえば、ダイトシにはかねがあつまるからだろう。トクにシュトとなれば、ゼイキンがあつまるから、それにむらがるといえるだろう。チョクセツもらうのではなく、しごとをしてそれをもらうと。

しかし、ベツのみかたもある。これは、どちらかというシャカイガクテキなみかただ。ひとには、ニシュルイのひとがいるかもいれない。ひとつは、チュウオウのホウをむくひとだ。なにかという、チュウオウのホウをみる。チュウオウでは、なにがリュウコウしているのかなどをきにする。チュウオウという、やはりダイトシだろう。

もうひとつは、ヘンキョウのホウをむくひとだ。いなかでは、なにがはやっているかなどをきにする。チュウオウのホウがいまはひとがあつまっているから、さびしくもなくなるかもしれない。しかし、いなかでノウギョウをしていなければ、たべていけない。だから、ノウサンブツをてにいれるために、トシでは、ニンゲンカンケイがジュウシされているといえる。そうやって、チュウオウのホウをむくひとがおおいから、ノウギョウがさかんになるというのはむずかしいかもしれない。

## サン

クラシックオンガクのコウキョウキョクなんかはすごい。タクサンのパートにわかれて、タクサンのおとをひいている。それでトクにうまいひとは、「ソリスト」とよばれる。ヴァイオリンもあれば、チェロもある、トランペットもあろう。いってみれば、タクサンのソロがまじりあって、キョクをコウセイしている。

そのテン、ニホンのオンガクは、わりとタンジュンだったりする。ガッシュウなどもやるひとはやっているが、よんパートにわかれてのうたをうたいだしたのは、サイキンのことであろう。ニホンジンもそういう「ソロ」のあつまりになれてきたかもしれない。それがすすむと、いまはあまりしないのではとおもうが、「おチャにしますか、コーヒーにしますか。」などと、センタクをさせるバメンがふえるかもしれない。つまり、そのひとが「なんの」ソリストかをシュチョウしなければならぬというバメンができるということだ。

ニホンはタンイツブンカなどというが、やはりそういうヘンカがでてきてもおかしくない。セイショウもいいが、やはり、「ソリスト」のカツヤクもダイジとおもうわけである。

わたしにいわせれば、ニホンのゲンダイのうたは、みつつのソロでできている。ひとつはうた。ひとつはカウンターメロディ、ひとつはコードだ（もうひとついえば、ベースフレーズ）。

クラシックだともっとフクザツだが、いまのうたは、そんなかんじである。だから、うりあげはどうあれ、ギジュツテキには、クラシックにおよばないとおもう。そうやって、モンクをいうならジブンでもっとフクザツなものをつくればいい。しかし、ギジュツがヒツヨウなのである。そうカンタンではない。まだまだクラシックからまなぶことはあろう。

よん

なぜ、ニホンジンのめはダイタイくろいのか。それは、そのいろがよくあるシゲンなんだろう。モクザイをもやすと、くろくなる。カンタンにいうと、そのいろをつかえばいい。ガイジンなら、うみのいろとか、シヨクブツのいろをつかえばいいだろう。

しかし、なぜウチュウがくろいのか。ひょっとしたら、もえかすがタクサンただよっているのかもしれない。わたしのカイソウセツ（●『スーペリアーをみつけた。』[イカ、『ス』]ゴジュウキュウ、ヒャクニジュウロク、ヒャクサンジュウロク）では、ウチュウがおおわれているから、くろいであろう。まえに、ブヒンがよければ、カンセイヒンがよくなる（●『オンガクイチェンのジダイ』[イカ、『オ』]ヒャクサンジュウイチ、『ス』ヒャクサンジュウ）。とかいた。

しかしである、モーツァルトのオンガクをまねてみた。おとそのものも、（ガツキをひいたわけでない。ガツキをひいたおとをつかった。）わるくない。それなら、「わるくない」オンガクができるはずである。

だが、ケッカはなれていないおとのシュウゴウになった。そのキョクは、いわゆるソロのあつまりのようなキョクである。それで、ブヒンもタイセツだが、シキ（くみたてギジュツ）もダイジだとおもった。いいハーモニーにしなければならぬと。だから、ソロがおおいようなオンガクのばあいは、シキシャがセンゾクでヒツヨウなのであろう。ひとつのギジュツである。

ニンゲンシャカイもそうなのだろう。シャカイブヒンをまとめるリーダーがヒツヨウなのかもしれない。トクにソロがつよいところではそうだろう。そういうメンでは、まだニホンはソロがつよくないといえるかもしれない。あまり、リーダーのはなしにならないからだ。セイゾウギョウでは、ブヒンをつくるのは、ニホンジンはつよいだろう。しかし、くみたてギジュツは、あまりやらなくなったブン、チュウゴクがつよくなっただろう。ハンエイするのは、ブヒンがつよいくにと、くみたてギジュツがつよいくにかもしれない

ゴ

「でるくいほうたれる。」という。しかし、ですぎたくいをうつのはむずかしい（●『よ

ろこぶゲンシジン』[イカ、『よ』] ななジュウゴ)。まえのホンでギロンしたいじめのモンダイ (●『ス』ヒャクロクジュウゴ、ヒャクロクジュウサン) も、くいをたたけばいいわけではないというケツロンである。なぜなら、フコウヘイがショウずるからだ。つまり、ひとりのできをかえるのでは、そのひとのフタンがおおきい。だから、コウヘイなりョウだけ、ゼンインのできをかえればいい。それはどういうことかという、でたくいはちょっとたたき、でてないくいはちょっとひっぱるということである。そうすると、それぞれのドリヨクがキントウで、あらたなフコウヘイカンがうまれないということである。

## ロク

このごろ、わたしは、うたのカシュのカンジョウヒョウゲンがきになる。たまにヒョウゲンがゆたかなカシュがいる。まえは、メロディにかしがのってれば、リップなうただとおもっていたかもしれない。まえに、ドのおとだけでなく、レのおとも、ミのおともくわえてはなせば、カンジョウがヒョウゲンできるとかいた (●『よ』サン)。たしかにそういうメンもあるが、それだけではない。こえのおおきさもそうだろうし、こえのシツカンもある。サイキンは、コンピューターにカショウさせたり、ブンをよみあげさせたりするが、まだまだそういうイミでジツヨウテキではないとおもえる。もっともそのギジュツがジツヨウカノウになってしまうと、コンピューターにだまされるということになってしまう。ゲンジョウのままでもいいのかもしれない。

## なな

ちょっとまえまでは、「コクサイキョウリョク」とか「キョウチョウ」とかいていたが、サイキンは、ナショナリズムがはやっているかのようだ。それについてギロンもあるだろう。

しかし、セカイジュウのみなのおあわせがダイジというイケンも、わたしたちのくにおあわせがダイジというイケンも、サイキンはあまりきかれなくなったことばだが、「イデオロギー」である。

つまり、ゲンジョウではそうではないが、モクヒョウとしてコウドウしたいというおもいである。それが、「ジコクユウセン」にかわってきているとすれば、(そのまえにいていた) コクサイキョウチョウは、あるテイドタッセイされたということかもしれない。そのうえで、ジコクをダイジにするだったら、そんなにわるいはなしでもないようなきがする。それでまたジコクがうるおえば、また、コクサイキョウチョウにむくかもしれないからだ。

シャカイもダイジだが、コジンもダイジである。ニホンでは、「シャカイジン」といい、シャカイニンゲンがソンチョウされるようだが、そういうタサイボウのいきものではなく、タンサイボウのいきものもある。つまり、コジンニンゲンでもいいはずだ。む



かしだったら、「いえ」ごとにかんがえていたんだろう。「シャカイジン」というかんがえは、そうふるくはないのだろう。それはともかく、サイキンは、モクヒョウがかわってきていると、そういうことだろう。タブン、どちらもタイセツだ。

ハチ

デンシキキのあるヨウシキのことを、「ドダイ」というようなことばであらわしたりする。「それはもっともフキウしている『ドダイ』だ。」というようにである。しかし、これはレトリックというか、セイヒンのイメージをよくさせるために、えらんだことばではないかともおもう。

それは、だれでもがその「ドダイ」にのれるわけではないからだ。トクに「ニュージョウセイゲン」はもうけていないようだが、おかねがなければ、その「ドダイ」にはのれない。さらに、「タイジョウセイゲン」ももうけていないだろうが、イジするのにそこそこのシキンリョクがいる。それなら、「つりわ」とよんだホウがいいのではないか。タイリョク（シキンリョク）のないひとは、かってにそこからおちるイメージである。しかし、「つりわ」はイダイである。それだけあいさされているわけだから。

キウ

だれかがリエキをだすと、ものがやすくなるはなしをした（●『オ』ヒャクサンジュウゴ、『ス』サンジュウハチ）。だから、ブッカをアンテイさせたかったら、リエキをあげるのをやめればよい。しかし、それをするというはなしはきかない。

ブランドもののよさは、ものがたりとかにあるのではないかもしれない。たかいカカクがいいのではないか。たかいカカクでかわれば、ケッコウなりエキがでる。そうすると、そのリエキのブン、だれかがうっているもののねだんをさげるのである。ブッカがやすくなるから、あえてブランドものをかうのかもしれない。

ジュウ

よくケイキがいいだの、わるいだのいう。コウケイキかフケイキかである。ショウバイをしていれば、コウケイキのホウがいいだろう。それとおなじように、「シャカイ」にもいい、わるいがないか。

ものがスムーズにとりひきできるのは、いいシャカイ（コウシャカイ）だろう。イッポウ、ショウヒンセツメイが、いいカゲンだったり、フリオウヒンをうりつけたりするのは、アクシャカイだ。ケイキ、ケイザイのジュンカンもダイジだが、シャカイのジョウタイもダイジだとおもうのである。

## ジュウイチ

ニホンのガッコウでまなぶショドウは、ハンシのおおきさにかきあげる。しかし、そこにかいたなんモジかは、ジツヨウテキナブンといえるだろうか。タブン、ジツヨウセイはすくないだろう。つかえるとしたら、スローガンにだろう。そういうのは、ネンにイツカイかけばいいぐらいだろう。それなのに、マイシュウイツカイはかく。たしかに、おおきなジでかけば、こまかいはらいや、はねにこだわるだろう。だが、ちいさいモジで、ブンショウをかいたホウがいいのではないか。どうもそんなきがする。いってみれば、いまのニホンのショドウキョウイクはゲイジツツテキナのだ。

## ジュウニ

ひかりはネツをもっていたりもする。ちょっとまえにはやったシンガタデンキユウは、あえて、ネツをへらして、あかるさをふやしたかたなのだろう。タイヨウケイのワクセイは、そとがわをまわっているものほど、オンドがひくいとされる。ジツカンとしてもそうだ。

たいたひのちかくにいればあついが、はなれるとあつくなくなる。だから、タンジュンにいうと、ダブリユエー（あたたかさ）イコールエルアイ（ひかり）わるディ（キヨリ）となる（ただし、ヒョウジュンテキナひかりのばあいだ。）。

しかし、あるキヨリをすすむことにより、あたたかさがうしなわれるかはうたがわしい。ひかりがあたたかさをうしなわないでとどくとするなら、ダブリユエーイコールエルアイだということになる。とおくのワクセイだと、ひかりのとどくヒンドがひくいというみかただ。ジツカンとしてはゼンシャだろうか。しかし、ネツのコウカン（すすむさきのブッシツと）とかんがえれば、コウシャといえるだろうか。また、ひかりのシュルイのモンダイもある。

## ジュウサン

わたしのおやじとおふくろは、センソウをタイケンしたセダイだからか、かなりシツツだ。あたらしいものなんか、メッタにかけてこない。わたしは、いまのところ、それをまねできていない。

おやじなんかは、ものをショウウしたところで、なにかがおこれば、なくなってしまうぐらいにかんがえていたのかもしれない。ただ、いまのところ、「トチ」はなくなるらない。だから、フドウサンがねあがりしたりしたのだろうが、またねさがりした（ジンコウゲンショウのため。）。おやじとおふくろがあじわったムジョウカンは、ジツサイにタイケンしてみないとわからないかもしれない。

## ジュウよん

フケイキのときには、シツギョウがふえるという。そこでシヨクをうしなつたひとはどうすればまたかせげるだろう。

ニンゲンのこのむものをみれば、それはタッセイできるかもしれない。パソコンがはやつたジダイなら、パソコンみたいなニンゲンになればいいし、ケイタイデンワがはやつたのなら、ケイタイデンワみたいなニンゲンになればいい。それはよくうれるのだから、まちがないだろう。

## ジュウゴ

ものエーと、ものビーをみたときに、ニンゲンは、それを「おなじ」か「ちがう」とハンダンするだろう。ニホンでは、コクミンドウシが「おなじ」だと、キンシツテキだといわれることがある。しかし、よくみると、ちがいはあるだろう。そういうなかでは、「ちがう」とイシキしたら、「ちがう」となる。

イッポウでガッシュウコクには、「ちがう」ひとたちがあつまっていたりする。そういうなかでは、「ちがう」とニンシキしなくても、「ちがう」だろう。へたすると、「ちがう」ドウシでケンカになるから、「おなじ」とおもわせるしかけがヒツヨウとなるだろう。

そうやって、カンネンテキに「おなじ」にしていく。しかし、いまのはやりは、「ちがう」であるかもしれない。しかし、それをすすめると、ドンドン「ちがう」になってしまうので、「おなじ」といえるしくみをキョウカしたりするだろう。そうやって、くにやシャカイはやっていくんだとおもう。いまのところ、サイジヨウの「おなじ」はグローバリズムだろう。しかし、「ちがう」のではと。

## ジュウロク

「でるくいほうたれる。」という（●ホンチョ [イカ、ムヒョウキ] ゴ）。しかし、それではサギョウリョウがふえる。だから、でるくいをほおっておくと、もっともコウリツテキとえるかもしれない。たとえば、しごとなどでだ。エイギョウのエフさんはうりあげが、ほかのひとのニバイある。それをうってしまったら、コウリツがおちるだろう。それではしょうがない。

## ジュウシチ

「チームワーク」がいいなどという。ひとがそれぞれしごとしているよりも、ダンケツしてしごとをしたホウがいいようにおもえるかもしれない。それはただしいかもしれないが、モンダイもある。

それは、まとまることがモクヒョウになったり、まとまることにおおくのロウリョクをさくばあいである。たとえば、それぞれのひとが、ニタンイジカンをついやして、イチずつのしごとをしたとする。それをチームワークよくやるばあいに、ひとひとがまとまるのに、ニタンイジカンをついやしたら、それぞれのばあいにニタンイおとるし、まとまるのに、イチタンイジカンをつやしても、イチタンイ、それぞれのばあいにおとる。だから、それぞれがしごとをしたホウがコウリツはよいとなる。

#### ジュウハチ

わるいことをすると、バツをうけるというのがある。そのホウがひとはわるいことをしないとされる。しかし、わるいことをつぶしているだけで、ケンセツテキといえるだろうか。

ハンタイにいいことをしたこと、ショウをあたえるというのもある。そのどちらもあるのがフツウだろうが、ニチジョウテキに、トクにコジンとしてはたらいっているばあいには、ショウをもらうというのはあまりないとおもわれる。だから、うまくショウをうけられるようにすれば、もっとしごとがハッテンするかもしれない。

#### ジュウキュウ

ミンエイカは、ハチジュウネンダイから、カッパツになった。ソレンのシッパイとドウヨウ、ケイエイのしかたのモンダイともいえる。しかし、そのほかにも、モンダイがある。それは、まえにシテキした、コウリツのモンダイである（●ジュウシチ、『オ』ゴジュウロク）。

つまり、まとまりをジュウシするゆえに、ココのはたらきがよわくなってしまうということだ。それなら、ココのちからをいかせばよい。それだけであろう。

#### ニジュウ

もう、バブルゴのセダイがそだっている。そのセダイは、そのまえのセダイとはかんがえがちがうであろう。だから、「センゴ」のジダイのつぎのジダイがはじまってよさそうである。しかし、センゴのセイサンがおわらないために、なかなかそういうこえはきかれない。センゴのセイサンがすすまないためかもしれないし、そもそもセンソウがおわっていないからかもしれない。ショクミンチへのサクシュへのトウソウなどである。

まだまだヘイワとはいえないそうなのである。

#### ニジュウイチ

ダブリユエー（あたたかさ）イコールエルアイ（ひかり）わるディ（キヨリ）とかいた

(ただし、コウセイがハツするようである。●ジュウニ)。これがただしければ、ウチュウのそとがわは、つめたいはずである(●『ス』ゴジュウキュウ)。

それで、わたしは、ウチュウのそとがわは、コタイだとかんがえる。つまり、なかからみたチキュウのようにである。それとドウヨウに、チキュウのうちがわにも、ウチュウのようなものがひろがるとかんがえる(●『ス』ヒャクニジュウロク)。イチブンでいえば、ウチュウとは、カイソウコウゾウになっている。ということである。

## ニジュウニ

ケイザイののびは、みぎかかたあがりがいよとされる。しかし、にもかかわらず、キュウなハッテンをカンゲイしたりする。そのリュウのひとつは、かぶぬしのリエキのためであろうが、まあ、それをキタイしたりする。

そうではなくて、ケンジツなのび(ネンリツイッパーセントのうりあげゾウなど)をめぎすのがよいのではないか。「ながいきケイエイ」といっておく。

## ニジュウサン

ダイエイテイコクは、かつてのセカイイチのようにおもわれているかもしれない。そのゴに、ガッシュウコクがさかえたからだ。「アメリカジンによるヘイワ」なんてことばもある。

しかし、ジョウキキカンなどをカイハツしたギジュツリョクは、ゲンザイでもいきているだろう。また、レンポウのくにもおおい。そういうくになが、「チキュウカ」などといひ、がんばっている。

このさきは、ガッシュウコクとチュウゴクだといういいかたをするが、ベツのセンもあるのだ。トクに、チュウゴクがたくわえたセイゾウギジュツ(もはや、ニホンジンがつくれなくなったセイヒンもおおいだろう。)と、ダイエイテイコクのギジュツがくみあわされれば、もっともつよいケイエイタイといえるだろう。

## ニジュウよん

フリョウショウネンがひざをまげて、おしりはつけずにすわるというビョウシャがある。わシキベンジョは、そういうつかいかたをする。このすわりかたには、ほとんどのニホンジンがこころえているだろう。

ところが、キュウジュウネンダイに、おしりをヂメンにつけてすわりこむわかものがふえたという。それはタイドとしてのリラックスであろう。ヨウシキベンジョがふえたためかもしれない。それにタイオウして、サイキンは、わシキベンジョがへっている。

ニホンジンのドウサにリラックスがふえたようだが、どこにすわるでもなく、いすに

すわるでもなく、そういう「わシキずわり」のシセイは、ファイティングポーズのようにダイジだともう。

#### ニジュウゴ

モジをかくのに、おおいシュルイですくなくかくか、すくないシュルイでタクサンかくかというセンタクがある。ゼンシャはカンジをかくようにであり、コウシャはエイゴをかくようにである。

どっちのハウシキでもよいが、ゼンシャのばあいだと、ひとつひとつのモジをおぼえることがカンタンでない。

そういうモンダイがあつてか、サイキンは、コウシャをシジするひとがおおいようにおもう。ニホンゴは、そのチュウカンである。ヘイキンからみると、カンジはくろうとむけだろう。

#### ニジュウロク

モジがハツメイされ、キロクがカノウになる。そのゴ、そのモジがくずされ、キロクしやすくなっていく（ショウケイモジから、ゲンダイのモジのように。）そうすると、キロクのリョウがふえる。それをブンカというのだろう。

キンネンでは、デンシテキにキロクされる。まだまだブンカのジダイはつづくかもしれない。

#### ニジュウシチ

ハチジュウ、キュウジュウネンダイは、ニホンはセカイでニバンのケイザイタイコクといていた。コクナイソウセイサンガクが、セカイダイニイだったからだ。いまは、セカイサンイといている。

しかし、ホントウにそうなのか。ホントウのところは、イーユーとエイレンポウにつづくセカイダイゴイである。それをわすれてはならない。

#### ニジュウハチ

ミライをヨキしたシナリオエーとビーがあるとす（シーもあるかもしれない）。それをだれがきめるのか。シジョウがきめるのならば、それはミンシュシュギだろう。かみがきめるというのもあるだろうし、セイジカがきめるというのもあるだろう。それで、セイジというかのシュルイがクベツできる。わたしは、いまのところ、それぞれがきめているとおもっている。

## ニジュウキュウ

もし、ミライのシナリオをシジョウがきめるのなら、そのシジョウをソウサしてしまえというかんがえもできることがかんがえられる。それができるとなると、もはやシジョウがきめているとはいえないであろう。そういうのをソウサされたシジョウということにする。

だれがソウサされたシジョウをつくるのか。ひとつは、セイジカだろう。そうすると、そのカイニューがおおいほど、シジョウを（ミンイを）ソウサするわけだから、チョウキセイケンがきやすくだろう（だから、「ちいさなセイフ」がはやらない。）。ドクサイになるかもしれない。

このようにコウセイなセイドのようでも、きびしいウンヨウになるカノウセイがあることをショウチしていなければならない。コジンがシナリオのセンタクケンをもてるシャカイがよいシャカイかもしれない。

## サンジュウ

いまごろでは、あまりヒョウカされるニホンセイヒンはすくない（ニホンキギョウはカイガイでもつくったりもしている。）。ユイイツのレイガイは、くるまであろう。

なぜヒョウカされないか。わたしは、それは、ニホンキギョウが「ブツリョウ」にはしったからだとおもう。ブツリョウとはどういうことか。タクサンうるということではない。セイヒンのシツがブツリョウなのだ。

ハチジュウネンダイからのエンだかになるまえは、すくないエネルギーでうごくようにセイヒンがつくられていた。しかし、エンだかにふれてからは、いろいろとユニューできるようになったからか、ブツリョウにはしりだした。カセットテープレコーダーは、デンチがジュウジカンもつが、シーディプレイヤーは、ゴジカンしかもたない。コウシャのホウが、おとはよいといわれるが、そういうケッテンがある。シゲンのすくないくにすむイジョウ、それではいけないのではとおもう。

## サンジュウイチ

サギョウのコウリツカなどという。それをするためになにをするか。サギョウにかけるジカンをきめるのか。それもできるだろうが、タンジュンにいうと、サギョウにシャクドをつくれればよい。コンピューターをドウニューしているのならカンタンだろう。

## サンジュウニ

あるセイヒンがあるとする。それがベンリなら、シジョウにのこる（つかわれつづける）だろう。こどもをうむうまないのかんがえかたはあるが、やはり、ベンリなら、シジョウにのこるだろう。そうかんがえると、センシンコクのニンゲンは、やくにたっていないことになる。どうなのだろう。

#### サンジュウサン

ケイキがいいだのわるいだのいう。おかねがよくまわっているかどうかをあらわすことばなのだろう。ケイキがわるいと、ケイキタイサクといって、コウキョウコウジをはじめ。そうすると、セイフのあかじがふえる。それでいいのだろうか。

センゼンからそうだが、ニホンはユニウがあって、なりたっている。だから、ボウエキシュウニウがダイジなはずである。どうも、それをわすれてしまっているかのようだ。

#### サンジュウよん

ダブリュエー（あたたかさ）イコールエルアイ（ひかり）わる ディ（キヨリ）とかいた（●ニジュウイチ、ジュウニ）。

しかし、ひかりがすすんでいくことにおとろえがないとすれば、ダブリュエーイコール エルアイとなる。だとすると、ひかりのとどかないところは、ダブリュエーイコールドレイとなる。そういうわけで、そういうところにはコタイがあるだろう。

#### サンジュウゴ

キュウジュウネンダイに、「トレンドィ」なブンカがはやった。テレビバングミによるエイキョウあっただろうし、ザッシによるエイキョウもあったろう。

なぜか、クリスマスには、デートをしてといたぐあいに、コウドウレイがしめされる。そうしたブンカのエイキョウがあったからか、ふと、そういうブンカをおもいだしたりする。そういうことをしなければという、なかばギムカンのようなカンカクにおちいることがある。ベツにジブンはジブン、タニンはタニンなのだから、それにならずしもしたがうヒツヨウはないが、それをしないと、「まけ」をセンコクされるようなきがする。

なにかそういう「トレンドィ」とはちがうブンカをみつけなければならないかもしれない。

#### サンジュウロク



わたしがコウコウセイのころ、かよったシィディやは、ルイケイでイチマンニセンゴヒャクエンブンかうと、ニセンゴヒャクエンブンのシィディがもらえた。リツにすると、ニワリである。そういうサービスがあったのでよくいった。

いまはそういうみせはみられなくなった。ベツのいいかたをすれば、それは、まずしなくなった。ひよっとしたら、ニンゲンもそうかもしれない。「コセイ」とはいうけれども、コウリツがユウセンされ、コセイはへっていく。

#### サンジュウなな

キュウジュウネンダイコウハンから、ニホンでは、パソコンブームになった。それからパソコンがフキュウした。トウジ、ニホンのメーカーはニホンでつくっていた。いまは、チュウゴクセイがおおい。

それはともかくとして、パソコンをつくることで、だれがもうかるのか、タブン、ニホンジンももうかるが、チュウゴクジンがイチバンもうかるだろう。なぜか。オウベイがアルファベットのブンカなのにタイして、チュウゴクは、カンジのブンカだからである。グタイテキには、モジニユウリョクでラクになる。カンジがもっともカクスウがおおい。それを、ジブンではかけなくてもつかえるのだ。そのメリットはおおきいだろう。

#### サンジュウハチ

ウチュウのそとがわに、コタイのかたまりがあるかもしれないというはなしをした（●サンジュウよん、『ス』ヨンジュウハチ、ゴジュウキュウ）。

ひかりすらもこおりつくほどのテイオンではないか。そこにたまったひかりのコタイが、あたらしくトウタツするひかりによってねっせられ、エキタイ、キタイとなるのではないか。そのケツカ、ウチュウのうちがわにむかって、コウセイのネンリョウとなれば、ウチュウは、またジュンカンする。

#### サンジュウキュウ

ウチュウのそとがわから「ガスカしたひかり」が、ウチュウのうちがわにながれているかもしれない。とかいた（●サンジュウハチ、『ス』ヒャクジュウゴ、ヒャクキュウ、ヒャクハチ）。なぜ、そういうことがおこるか。わたしは、ブッシツのうごきは、キホンテキに「コウカン」だとおもうからである。いってみれば、エル（うごき）イコールイーエックス（コウカン）である。

さきのレイでいうと、ひかりとガスカしたひかり（ダークライトということにする。）が、コウカンされる。それによって、ウチュウがながもちするのではないか。

## よんジュウ

エル（うごき）イコール イーエックス（コウカン）とかいた（●サンジュウキユウ）。そうであれば、まえにかいた（●『ス』ヒャクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ）ように、エルイコール ティ（ジカン）である。これから、ティ イコールイーエックスとなる。

つまり、ティをセイリツさせるためには、ティ イコールイー（エネルギー）わるダブリュ（おもさ）ゆえに、エネルギー、オモサがヒツヨウで、ティとコウカンはトウカとなる。

ニンゲンのことばのおもさは、あまりはかられないが、カガクブツシツとすると、なんグラムかだろう。そこにエネルギーがあり、コウカンカノウだとすると、ジカンのカンネンができるだろう。ニンゲンは、エネルギーをもっているし、ことばをコウカン（たべることもだ。）するから、ジカンをニンシキすることがカノウだったのだろう。

ジカンがないと、シンポすることがないから、コウカンしないようなセイブツはほろびただろう。

## よんジュウイチ

ジカンとコウカンについてかいた（●よんジュウ）が、これは、セイブツであるためのジョウケンかもしれない。つまり、イチ、エネルギーがあって、ニ、おもさがあって、サン、コウカンがカノウであること。ジリツテキなコウカンができるところが、ほかのものどちがうだろう。

ニのおもさがあるは、みたせるものがおいだろう。しかし、イチのエネルギーは、ほかからちからがかかるばあいもあるが、なかなかみたせるものはすくない。サンのコウカンカノウとなると、もうめずらしい。

エーアイののっているパソコンも、それにちかいがジョウホウをコウカンするだけだ。だから、セイブツをテイギするには、「エネルギーセイのもの」をコウカンするといったホウがいいかもしれない。

このジョウケンセイリしていくと、「あなたは、ティ（ジカン）イコール キユウジュウイチ（ジュミヨウがキユウジュウイツサイ）ですよといえるかもしれない。

## よんジュウニ

デスクワークばかりしているジブンに、ジブンとエーアイとのサをといかけたとき、どちらがうのか、イッシェンではセツメイできなかつた。まえからいっているように（●『オ』ジュウ、サンジュウ、サンジュウイチ、サンジュウよん、サンジュウゴ、サンジュウロク、ななジュウハチ、ヒャクよんジュウイチ、ヒャクロクジュウサン）、ジムサギョウはエーアイにうばわれてしまうだろうから、あせりもひとしおだった。

それなら、うごきまわれればいいのかであるが、それは、イッポまちがえると、「ボウドウ」とまちがえられるかもしれない。そんなことをかんがえると、はたけをイジすることをわすれているときづく。ジンルイのハツメイだったはずだ。そんなことをわすれているようじゃしょうがない。

#### よんジュウサン

ひとのセイカツには、しごともあったホウがいいだろうし、シュミもあったホウがいいかもしれない。また、なにかのサギョウは、しごとだとおもしろくない。もし、すべてのサギョウが、しごとだったらどうだろう。たのしいはずのリョコウも、たのしくないかもしれない。

わたしは、ガッキをみてさがすのがシュミだが、これがしごとだとすると、みたとしてもかいたくない。シュミといっても、ケイサンすれば、つかわれるカイスウはかぎられる。シュミだと、やらないこともセンタクシのひとつだが、しごとだと、やらないしごとはムダである。

そういうめでみると、あまりつかわないものはかおうとはおもわなくなる。わたしのおやじも、おふくろもあまりムダなものはかわなかった。そういうみかたがわたしはできなかったのだとおもう。

#### よんジュウよん

サイキン、テレビをみて、ふとおもった。ガメンにうつっているニホンジンのこどもは、めぐまれているなど。タブンガッコウにいつているのだろうが、シュミもやっている。わたしがそれくらいのネンレイのころにも、やはりシュミをやっていた。プールにいくとか、テレビゲームをすとかである。

そういうゆたかさがおわっていないすると、まあここサンジュウネンほどは、あまりケイザイなどがアツカしていないのだろう。よくはなっていないかもしれないが、わるくもなっていない。まあ、わたしは、それで、わかいセダイに、ゆたかさをひきわたせたのだとアンドした。「バブル」というのもあったが、またおきるとはカクシンしていない。

#### よんジュウゴ

エル（ウンドウ）イコールイーエックス（コウカン）とかいた（●サンジュウキュウ）。ニンゲンもエルがカノウで、したがって、なにかをコウカンしてうごいているだろう。たべものやガスなどである。

これらは、カガクブッシツといえるだろうし、ばあいによっては、デンキシソウショリだろう。もし、そうであるなら、エルイコールイーエル（デンキ）である。それから、デ

ンキをもつものはうごくとなる。シィディプレイヤーもうごいているし、テレビもヒョウジをかえる。

もし、ワクセイのカツドウをデンキでとらえれば、デンキがあるゆえにうごくともかんがえられる。つまり、ジュウリョクはデンキというわけである。ジー（ジュウリョク）イコールイーエルだ。また、ジーイコールエルでもある。これは、ジュウリョクにひかれるというはなしだから、わかりやすいであろう。

#### よんジュウロク

ちいさいおもいものをもってから、おなじおもさのおおきなものをもつ。すると、おおきなホウが、おなじおもさであるにもかかわらず、かるくかんじる。これは、タブン、シンリガクでいうサッカクであろう。ニンゲンはタイセキにあわせて、おもさをスイソクするチセイがそなわっているのだろう。

#### よんジュウなな

タイヨウには、ジュウリョクがあるといわれる。わたしはそれをうずまきリョクといった（●『ア』ヒャクロクジュウサン、『オ』ヒャクゴジュウロク）。そのかわりに、そとがわへむかってひかりをだす。ということは、ジー（ジュウリョク）とエルアイ（ひかり）のコウカンといえそうだ。

しかし、ジーがつよまれば、エルアイもつよまるわけではない。もえつきたあのように、ひかりをださないこともあるだろう。だから、ジーがつよまれば、イーエル（デンキ）がつよまるとはいえそうだが（●よんジュウゴ）、ジーがつよまれば、エルアイもつよまるとはいえなそうである。

#### よんジュウハチ

タイヨウは、ジュウリョクをもち、かわりにひかりをだすとかいた（●よんジュウなな、『ス』ヒャコジュウゴ）。そのようにひかりはジュウリョクからリダツするセイノウをもつ。それならば、ひかりをつかって、ジュウリョクからリダツするなにかもつくれるだろう。

#### よんジュウキュウ

ガッシュウコクで、あまりシャカイシュギシャがいるとはきかないが、タブン、シャカイシュギシャもうけいれるんだろう。イッポウ、ロシア（ソレン）やチュウゴクは、

シャカイシュギコクだったが、シホンシュギテキなケイザイカツドウをはじめている。たまに、ガッシュウコクとチュウゴクのニタイコクが、チキユウシャカイをきめるなどというが、それがなぜなのか、あまりセツメイされない。わたしはこれをつぎのようにおもう。

ガッシュウコクなどのにしがわショコクは、シャカイシュギをみとめるシホンシュギコクである。かれらと、(ロシア、)チュウゴクなどのひがしがわショコク、シホンシュギをみとめるシャカイシュギコクとのトウソウではないか。おなじようかもしれないが、ちがうともいえる。そういうことではないか。

## ゴジュウ

いまのニホンやこれからを、コウレイショウシカといっている。としよりがふえて、子どもがへるということだ。ひとがおいとどうなるか。からだがうごかせなくなったり、ぼけたりする。わたしのおやじもそうだった。ジテンシャにのってころぶくらいだったのが、やがてねたきりになった。そうすると、ヨウもたせないから、おむつとなる。

たまに、わかいひとがナンニンで、としよりをひとりささえるというはなしができるが、まあそれだけロウリョクがかかるといえる。そのブン、フツウのしごとができなくなるといってもよい。そのように、おむつかするニホンであるが、フツウのしごとだけでなく、ボウエイなどもタイヘンであろう。いまは、ガッシュウコクがたすけてくれるからいいが、ニホンジンがおかねをもっていないとなると、そうもいかない。

チョキンがあって、おかねをあまりつかわないというと、ケイキがわるくなるという、だれかがおこりだしそうだが、チョキンというのは、「ホケン」であろう。フツウのホケンは、だれかにおかねのウンヨウをまかせるが、チョキンはジブンでウンヨウする。ウンヨウにかかわるコストもおさえられるから、フツウのホケンよりいいかもしれない。そうしたジコホケンがあれば、なんとかなるだろう。ニホンジンがおむつかしたときに、ホケンなしではセイカツできないであろう。セイフは、ジコセキニンとはいわないが、やはりそういうメンがあるだろう。

ウンドウはすべてエレクトリック。シドクバン  
エイゾウ

ニセンジュウキユウネンハチガツジュウよっカ  
ニセンニジュウネンイチガツニジュウイチニチ

iii toga b006-2s

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアイアイアイティオージーエーピリオ  
ドシーオーエム

ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイティオージーエーピリオド  
シーオーエム

エイゾウのホン

『アルクカラカンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガクイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

『スーペリアーをみつけた。』ニセンジュウキュウネン

エイゾウのデンシサイトからコウニュウできます。

<http://eizo09.com>



---

『ウインドウはすべてエレクトリック。』シドクバン

---

著 エイゾウ

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---